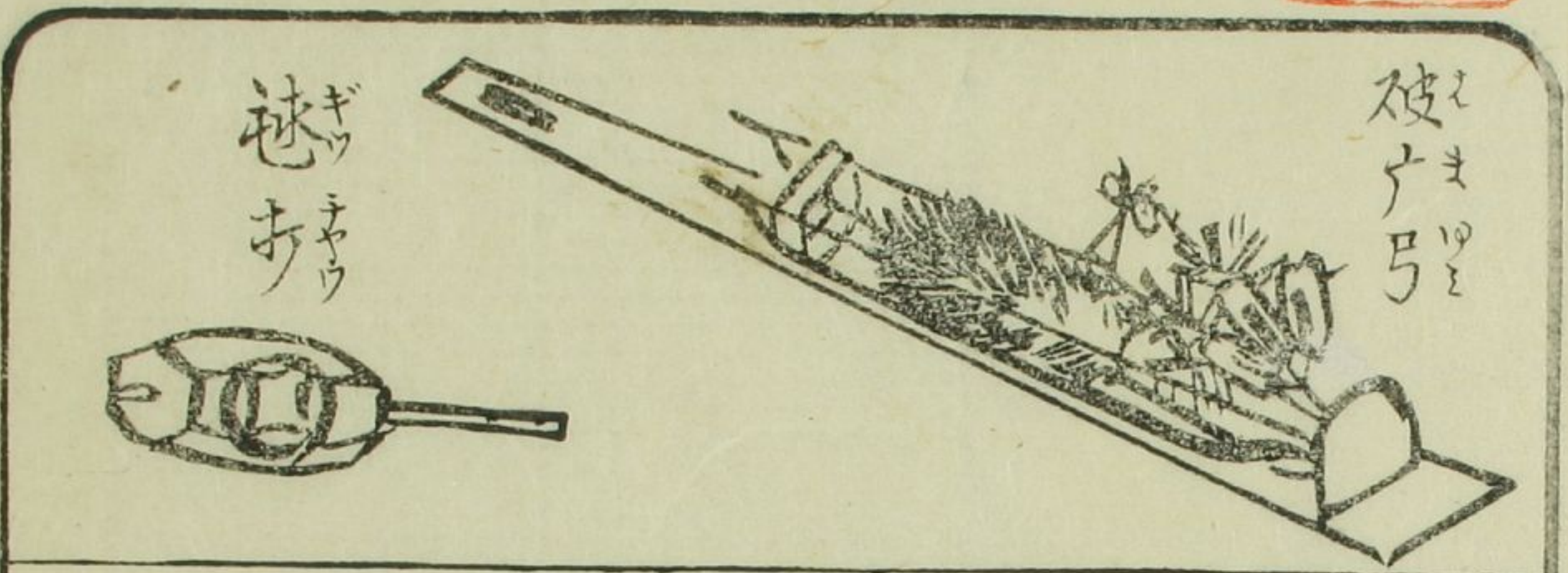




なまこさすのいははび井なる若きあゝ  
 志ふるこゝろをいふもいふもいふもいふも  
 しあやめ東は西はのまはるる  
 うたはさるるをいふもいふもいふもいふも  
 かゝははるるをいふもいふもいふもいふも  
 言穂の良枝をいふもいふもいふもいふも  
 なまこさすのいははび井なる若きあゝ

うまふたなちなきあさの株沼木  
 なづりゆりなむと文庫よもいづるハ  
 又ましくまの柳みーツーかくつばよ  
 柳一て千くらふをくくらふさちたはハ  
 さくとなむさむのゆあがしは  
 つ〜みあくたあさるもあさ〜まあ  
 固あるの里人信しむとあまし  
 四 園



華鳥文庫

春之部

春  
 初春の世常道具や津乃梅 桃水  
 系及穿てはつてまのよあはれ 馬遊  
 ころほ皆梅と落つ事名め春 可貞  
 海老の信習月に更科名の春 大和標本 花朝  
 健ふ春のあまらるる梅小鳥 紀呂若山 南鳳

縁々々々々々の  
浦々々々々々々々

子令此真あり

あつたの春  
イキ 枕蓆

死々々々の

うらあつた  
江呂 里童

夢の跡ふり  
お乃乃 蛙飛

お乃乃ハ棋よか  
おの内 壺山

うらあつた  
阿キ 延史

うらあつた  
阿キ 延史

正月

正月やいつも夜めんして 華實

正月やいつも夜めんして 出羽系 大橋

正月やいつも夜めんして 江呂彦根 栗三

正月やいつも夜めんして 江呂彦根 栗三

正月やいつも夜めんして 江呂彦根 栗三

正月やいつも夜めんして 江呂彦根 栗三

正月やいつも夜めんして 江呂彦根 栗三

正月やいつも夜めんして 江呂彦根 栗三

正月やいつも夜めんして 江呂彦根 栗三

正月やいつも夜めんして 江呂彦根 栗三

正月やいつも夜めんして 江呂彦根 栗三

正月やいつも夜めんして 江呂彦根 栗三

正月やいつも夜めんして 江呂彦根 栗三

初子日

野人をたりよむ 初子日 自樂

弓始

中よりいそおけり 弓始 井九

傀儡師

改中迄春めり 傀儡師 龜遊

梅柳

梅柳より春を候起し 梅柳 楚月

餘寒

雪をいふは筑波の余寒 餘寒 茶静

御忌

あつた御忌 御忌 大ッ

二月

計賣れ小笠もやう 二月 郊馬

春

春乃言ふをかる 春 井羽

春

春乃言ふをかる 春 井羽

春

春乃言ふをかる 春 井羽

春

春乃言ふをかる 春 井羽

春

春乃言ふをかる 春 井羽

江呂彦根 栗三

馬笑 井羽

あつた御忌 御忌 大ッ

あつた御忌 御忌 大ッ

あつた御忌 御忌 大ッ

あつた御忌 御忌 大ッ

あつた御忌 御忌 大ッ

あつた御忌 御忌 大ッ

又見... 舟や

田龍

小夜中山おほて

おほく舟に九郎

人の子を祝す

天来



車前子

秋田

右山

自來

春風

春風の一日... 自來

春雨

春雨の日は... 自來

陽炎

陽炎の日は... 自來

雛

雛の雛... 井竹女

霞

霞の日は... 鶴居

春

春の日は... 完眉

ねむい出づるふふふ  
もゆき浮洛馬湖  
吉日とよく初る  
百十鳥 里量  
拍本能隠もして  
猫の恋 壺山

正月十四日方より松戸  
四天寺六時寺に人多く  
集りて大まふ  
口ふふふに松板を踏  
あつた群集のうらあ  
裸子の村民多き寺傍  
牛王乃れをまつて大勢  
招きその牛王をいんそ  
押あひ宴合ひ奉りて  
牛王とゆるあはれんそ  
あふふふ

恒越しふたお付乃  
湯後ふふ 公路  
あつたの香にむせいで  
啼く松乃鳥 六羽  
郭中花  
さあつたの待を限り  
あつたふふ 亜井  
壺の向ふふふ  
やあつたふふ 井眉  
観想  
あつたの指のふふや  
それふふ 秋田  
御風  
あつたのふふ  
アキタ  
字三

あつたのふふ  
松風の人のふふ  
古家や今ふふ  
ねむいふふ  
あつたのふふ  
鹿洞



春日 菟村を出し、水田のふふ月 采子 大眉  
春の月ふふ人ふふ 若山 石蓼  
酒買ふてあつたふふ月夜 石原南佐木 玉延  
おほつた月あつたふふ 鳩の杖 藻雨  
あつたのふふふふふふ 佳元  
あつたのふふふふふふ 鬼月  
あつたのふふふふふふ 啾石  
あつたのふふふふふふ 梧琴  
あつたのふふふふふふ 桐鼻  
あつたのふふふふふふ 桂丸  
あつたのふふふふふふ 完屋  
乙鳥 寺法ふふふふふふ 完屋

舟のま田ふしけ息ふ  
 ちりたる 昂左  
 舟のふ所こまかり  
 舟は月 せし  
 秋のまも横よ吹く  
 子燭の灯いせ  
 花ふれ吹風をほ  
 人乃上 江呂九野  
 不れねや余あへう  
 向く菴の曙 伯呂嘯石  
 枕ちや家い毎日  
 古くあ 世田一鳥  
 折らねふ人数ある  
 さうが 自出

猫意 志のひてもあふれものをもけ猫  
 蝶まに買つてあし月毛馬  
 後後言同 蕉雨  
 秋田能代 羽友羽女  
 十カ七 此角

ちりけさあものうつーや春の鳥 井眉  
 口和つたふ延くまの研 自樂  
 山室は田が裏ふさ白と人の集て  
 霞の余をさちなりうはく  
 出さきもせはふ柳の秋の月  
 小洞くまふなるを見流  
 樂全眉全

五

野田く  
 雀も啼て居のむ  
 藤及び 南亭  
 小ね路くまうく  
 去くはまきき様  
 木浦  
 舟よ物くねるさ  
 ちやますれくさ  
 エト南井  
 去し神うつてく  
 ささくこうまの所  
 江呂菴 芝溪  
 ちりちや林四五の  
 けや 八 鷗里

ちりかたふた襖のうけをま  
 厨子と仕給くまの佛舍利  
 洪水の流ハ鬼もく流つて  
 笹うたふま一掃一はき  
 髪わさくそれくま汁つてくま  
 夏は夜夜の更さく魚  
 ちりたり 小袖は膝上踏ら出  
 暮命湯よりせと又觸よあ  
 土鳩ハ河下に啼ても田舎の  
 子足乃瘦も春のまはく  
 ちりあうれまてハあしけあさ  
 全眉全樂全眉全樂全眉全

鳩の手にあそぶとき  
その鳥も 金魚

ささねや見ても  
わらわら 雀の鳥

田田 菊洞

うしむのまぬま  
いふ見ゆ

エト 何丸

雪の踏もろそぬ  
何木うね

エト 寒松

うしむの印も  
しやあふ

アノ 孝女

かろくあそびて見えぬ依係

全 樂

深江のほとけとまの秋よ

全 眉

籠の布子午時鐘をきく

全 樂

枯花はほ建とれるあ乃

全 眉

かゝりて見乃ちうは

全 樂

たつひともまの音知が

全 眉

元一佛を脊負ふ朝夕

全 樂

嵐もわくおほせるん

全 樂

思ふころろと板の間

全 樂

まやと箱のちかる重見

全 樂

空け子向はあふ

全 眉

入月はやく淋し水の色

全 樂

いらひまきに出るお

全 樂

あそび後ハ癖つく左り

全 樂

礼者々叩くえ日お

全 眉

羨しう駕はふく同

全 樂

南ふあむ鐘のゆる

全 樂

まろく嘆く花のあ

全 樂

昔より垣も三月の風

全 眉

東山の鈴がたは

福もころふ雨晴

遊子けき多は

まの鳥 エト 叶也

吉原にやう

大ッ 春峰

風いんまうや水の

他田 三六老

鳥やあそび

閑古

らんまて

茶外

蝶

蝶くや時世不味き

右 采



雀の子 てる女  
世に控ぬ若きあう  
くろ露の星  
カカヒ  
花く不語蘆依  
梅の糸 エト 護物

梅のさふひ花みも  
さふふくう  
梅のおやにふみあ  
やうきの新 湧流  
あふ年のうらひ遊ん  
うりの花 自糸  
か耐と耐はす梅の  
けうくろ 日人

梅の花は幼朱の  
さふりう エト雄花  
畑を仕舞 (つ椿)  
馬口浅村貝の螺も  
さふくお 井眉  
んさひふとさう  
ゆきき 南竹  
林さきく海の家内  
うい月ね 奇偶  
手結いなを萩  
くわうそく 一宵  
活をけりてあふ  
おのちのま エト護物  
名時の序あふま  
かきこたあ 一貝  
梅のさふひあふま  
をせひう 碧山  
敷きこたあ のハの  
るくつく 菅笠

蛙

せうくくと 蒼くやふそ雨乃際 鹿洞  
蝶ふらんまきさうくはし水の上 秋田 小野人  
朝の蝶草ふらへて何とまら 石羊  
酒社者につらく蝶のまの目 右考  
夜ふいしとあはれなう蛙の形 右考  
啼さうく月月のおとあす 巴長  
さふふまに存の向あふ田乃蛙 采友  
りふふの蛙ふくく啼ふく付 井南  
氷くくさの初きぬ 初蛙 采齋  
唯いふおふさく用い 秋田 鶴千  
雀子や不二の鈴新夏歩 古

鶯

梅  
鶯乃人ぞとそふく山路 石呂大森 一井  
日あふりや学つて末結末 全  
あはれはつてもあれ家根の岩 武呂玉川 天由  
あやあふりやゆき風行 全  
鶯ふ船のふもふく 石呂南 喃樂  
野ハ音乃まき鶯まき去 十二ハ 藍外  
焦くさくはつやさう啼止く 石呂浅利 夕嵐  
くくさくやう向くく 秋田 雪彦  
一本二本見てもあふはれ梅む 九鼻  
梅のあふりやうあふはれ 仲中 青雨  
うはれや朝りをあふはれ 石呂波根 排牛

りよきて小馬をぬき根  
と著は年 應々  
脂子にひらきそ乃  
より合 伯丈  
ひらきくは月を萩  
のさききて 蕉子  
踊る一ふふある男  
まじり 素志  
吾が秋茶うもま  
暗く出 行し  
舟ととやえなつ  
及く時 ます岐  
遠乃たのよれ本も  
定くあき 未お  
流れま 九赤風ふ  
むぬつれ 舟系

牛買つてころろふ  
子杉節松山  
ハッマ 守三  
浅く門下折のこを  
定えたり 二ト 碩布  
常やまもきぬの  
杉乃中 春江

ちんやさううけふ  
ひらけりやまて  
出てえれ我門  
あやうい  
五ノ雪丸  
杖水

花

正直不見をわくくは枝の家 古通  
梅咲く海ふきけり定根水 口矢上 木林俊  
梅見ぬとつて思て二月 夕川 紫水  
一といふ梅咲あけり路次のみ 口亀山 曉堂  
わさみくうはませふく梅のむ イツモ 樂二  
梅とくめはまう遊て曉道 口カヒ 雨祥  
梅のふくは月かふのほれ 出羽米沢 桂朗  
宵く起てぬく梅乃岩 アフミ 梅元  
梅咲て月ふちぬぬのまき 石飛太夫 一井  
曉味晴の白いもまや梅の岩 企  
梅とくや初あけぬのまき 鹿洞

梅は若馬鹿をわくくは 此角  
ふ見ても小家く稚く梅の心 イセ いく屋  
白梅小まけり言わ月夜 口後山 獨舟  
梅もまきあきまき長考 口指伴 孤静  
むらさき春や野ふ梅山 肥後 二調  
牛小鞭くくは上う梅のむ 肥後 三考  
梅咲て園新やま隣 口大津 栗三  
ふといまて梅ゆくと初梅 口大津 舒六  
初ふと見ると日天一天上 口大津 探草  
初見とつてい出ると小清い色 石加 青和  
初と初と見ると見ると一景 自樂

梅のついでに  
すゝめやしの花

スミ西月

吹く風は  
えびな

俗十丈

初花やうきく叶の  
おまへ

世南

ちりや人の  
あはれ

俗七彦

おぼろ月  
あけぬ

イカヒ 深雨

鶯やうか  
唄の末

和唄

たんぽう  
をこ

松田 花紅

易所  
おの

松田 好尾

百枝の  
おの

其成

梅つと  
梅さか

岱年

梅

花のあはれ  
おの

石見 梅津

春は  
おの

アラミ 東蒼

ふさ  
おの

アキタ 其翠

梅  
おの

イツモ 嵐水

名  
おの

弟子 小雛

又  
おの

伯良 草居

花  
おの

貝ツカ 吾鶴

ふ  
おの

ワカカ 舟抱

あ  
おの

アハ 元鳥

見  
おの

イカ 丈翠

る  
おの

イセ 芙蓉

花  
おの

杖田 宗三

眼  
おの

イヨ 柏堂

花  
おの

石品 北城

め  
おの

伊良 池里

お  
おの

三河 操老

お  
おの

石品 自樂

梅  
おの

石品 鹿鳴

咲  
おの

杖田 春長

梅  
おの

イヨ 青梨

い  
おの

石品 月兮

早  
おの

石見 梨雪



白鳥を待たぬのまゝに  
くろくねや 春  
梅も雀もししと  
好くや 月  
川水の清くさふ  
清くさふ 風  
嵐の中ふきし  
林の灯 春  
明月小人のあはれ  
夏ゆき 月  
唐ふねをわたる  
菖の戸 風  
中へふきし  
女郎も 春  
まのあつめのいせ  
ふきし 月  
佐川田んぼの春  
くさくさ 風  
新記 未暑

御所掛 秋田 露石  
梅若忌 子 成大  
但盤會 室津 桐鳴  
釋奠 乙調  
春駒 秋田 知言  
行春 三石 榎光  
踏歩して地を新く 天口  
川春や折はわし 倭草  
新まて合はて 草基  
春やむ人未て 井眉  
行せぬと春は 井眉  
まやや馬の鬣 井眉

昔菓子

コントニ



夏と部

卯月 白鷺が眠るころ 四月 其景  
給 人きく新の麻に給ふ 上総 李峰  
山屋や栲木ありて 文衣 備後 紫葉  
相島の多きは 千鶴  
大夫教 名取やうらやう 通也 易安  
相前後 春お小流の春を 井眉  
薬玉 菜玉や旭ふきあはれ 里童  
夏瘦 夏瘦や清き水は 壺山  
薬日 一丁あふれ 華寶

氷ふくく見出  
けや夏のうけ

天来

里のふやあやを  
行きて川に

ラハリ  
月夜

永代瑞と伝て

輪の晴やまの  
所乃佃一由

クニハ  
野揚

富士の八元

幅幅は出入り  
野の後 里童

清き神主  
山亭

盃のさくらさくら  
苔のふ 華実

祥鳥亭

我々下く氷路  
岸の石 雪香

古く月のつぎ夏  
たつ蒼子 伯品  
龜山

用はあひよ  
おろしや苔のふ

出羽山  
思山

夏

方はおやあまもさわらき 井眉

赤きのおぼれ山くみ 其系

夏山や何も若れふき鳥の形 イセ 樂系

之井の境大府の夏は余系 江呂指洋 孤群

早鮎

早鮎や薦一手は 石呂太田 梅亮

五月雨

女々もや晴て ヒラノ 井二

柳の雪より ヒラノ 枝盛

まはる ヒラノ 千鶴

暑

まはる路のさくら カラノ 湖組

氷雪月

氷雪月や杉の位 カラノ 坊丹

あき カラノ 井水

清水

清き水に カラノ 湖組

月 カラノ 千鶴

雪 カラノ 魚雄

雪 カラノ 魚雄

雪

雪 カラノ 魚雄

雪 カラノ 魚雄

雪 カラノ 魚雄

雪 カラノ 魚雄

涼

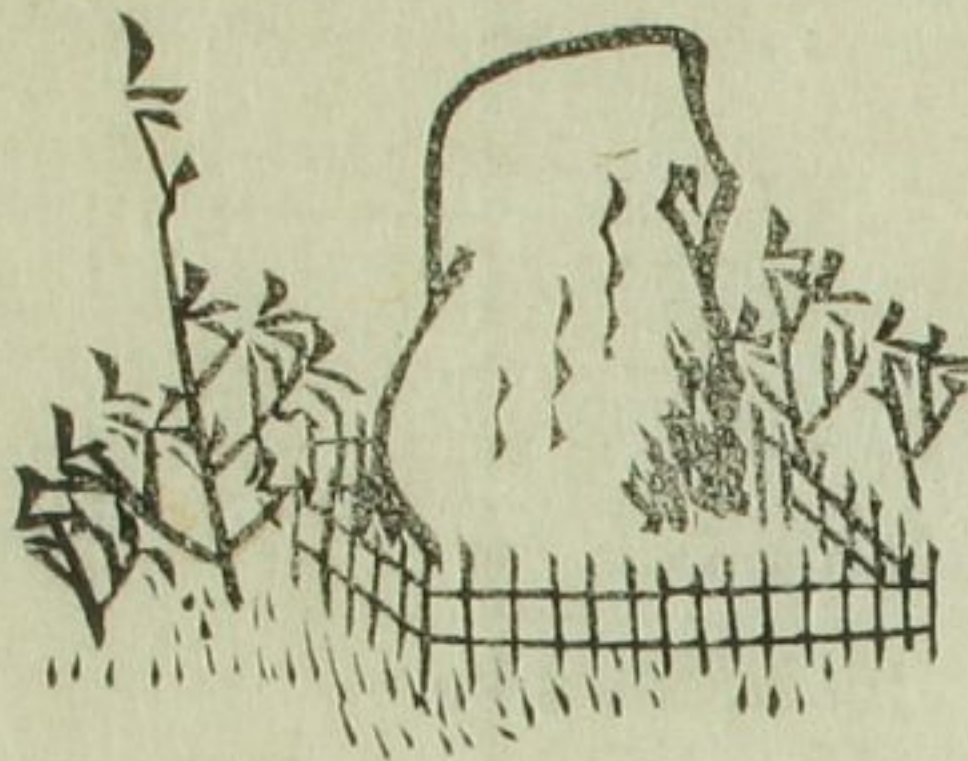
涼 カラノ 魚雄

涼 カラノ 魚雄

涼 カラノ 魚雄

くねふやさきしほ  
 谷の湯の耳に  
 度時 汲山  
 西風乃もろく我ら  
 世々 恒年 伍員 和鳴  
 幅幅やせのうきま  
 くもかす 自出  
 夕晴のしきくそふ  
 くや月乃怪  
 和後 標白  
 幼穉乃ちまき  
 山は夏 ふえて  
 里童  
 かつらやや青田ふ  
 川は 標の海  
 唐洞

夏月 夏は月葉打つ石のさし  
 出てゆき人もあつて夏は月  
 情もあつてもあつて乃  
 短夜とさし控ても月ね  
 短夜 夕夜の別際くくねの鳥  
 短夜もあつても伸もあつても  
 川持 川持よけいり登りや夏の舟  
 川持や留手けり月か  
 風薫 花散るはけり時風のさ  
 青嵐 身はくの物もあつて青嵐  
 炎天 炎天や遠ふ一ツ待乃若  
 一宿  
 北岬  
 思山  
 一巴  
 舟祀  
 蘭溪  
 千杖  
 和氷  
 其玉  
 魯秋  
 自樂



招き人の上より  
 あつて 伍員  
 月は山の上  
 きの崎 井眉  
 奥加錦木塚

暑  
 竹梅ふ蠟燭ももて暑く  
 此の原はまや美天ふあり  
 湖を渡るは清くは敷乃き  
 麻吉の白はあつて早き  
 雲は峰もあつて条の雨ふ  
 都見ぬりと清くもその奉  
 日盛は花のけしきもあつて  
 夕立 跡はふもあつて久きや夫  
 水合 人形の水もあつてあ  
 夏 夏はあつて花もあつて  
 茂 灯もあつて花もあつて  
 紅  
 招奇  
 賀日  
 岬石  
 吾鶴  
 吾鳥  
 井二  
 茶城  
 里童  
 懐橋  
 里童

清海の小八幡の  
竹あり舞うちを  
蚊帳のふりかざりて  
すゝ家まゝくあま  
法方山遊園

唐草花ねり

蚊帳の色

江島小井

雪景

山々のうらまは消し

蓮花雨

備前

菊雅

ゆづのわのそま

安さや蓮乃上

大八五青

若葉 蘇我名小塔城の  
草是 采子

山寺や美濃とみも古き枝 石長 石山

降て沸くやあ日にくみりけ 丹宮 雨川

後ひく葉家ほきけあま 玉彦

久米切をわぬ樹まきわ 椋 椋

甲の子は法書あまやあ楓 鳳車

旅せしと見ふて十日若楓 町海

若竹 若竹や中も若竹くまき 郡山 壽樂

蓮 蓮あふもせよ蓮八佛草 湖池

隣あふり人たてりせは 淋山

蓮乃香やまてり人た 石島 左琴

住吉寺田植の神事  
例年五月廿八日櫻乳守の  
遊女田植のあく紅のたす  
きふぬる物と肩まけ  
ふりては早苗を  
市女の上造りの鏡  
見ゆりて早苗を  
ちく神田をとり植人  
数千人時つ植を  
當日は社内市吉舞の  
神事なり

山宮の春にかさめて  
なま木を志 枕草

さるはののやうにけき  
四竹ふか モリキ 華終

まう代わき 仙行  
子観



蓮はたあまも成りて 郡山 霞名

夕顔 夕顔や入のうらな 井池

ゆい魚のちわきあし 相馬 素人

芥子 いろはまのふかやうの 萩

市郡や鈴くさき水は 宇野月





古江鳥あり  
 るら子規 井眉  
 嘆のころ様の下や  
 苔むす 山井  
 任よりや瘦の上乃  
 夏を待 文青  
 河骨のねまら  
 やく水動く 平野枝盛  
 竹ハ休ねの涼き  
 春景  
 川出るや五天の水の  
 色の上は 井水

茶禮ハ逸士の逸趣  
 徒虚因情と静に  
 一土釜一軸さる金  
 流弊とよつと  
 玉つてハ立客は浴  
 して服と之押  
 致を守り馴み  
 あり其室ハも  
 の鑑や王彦といは

苔むす 暮るりや見さけ之苔むす 林田 花紅  
 蚊 川蚊の灯をむす 三河 裸老  
 人よあまの産ある藪蚊ハ 林田 草三  
 霞 霞鳥羽も好味乃掃之赤山 草巻  
 二日月出てくはく初雪 井二  
 飛はるるく水ふるはく 肥後 雪笠  
 画の具くく人のむくふ雪ハ 井眉

都鳥  
 赤一

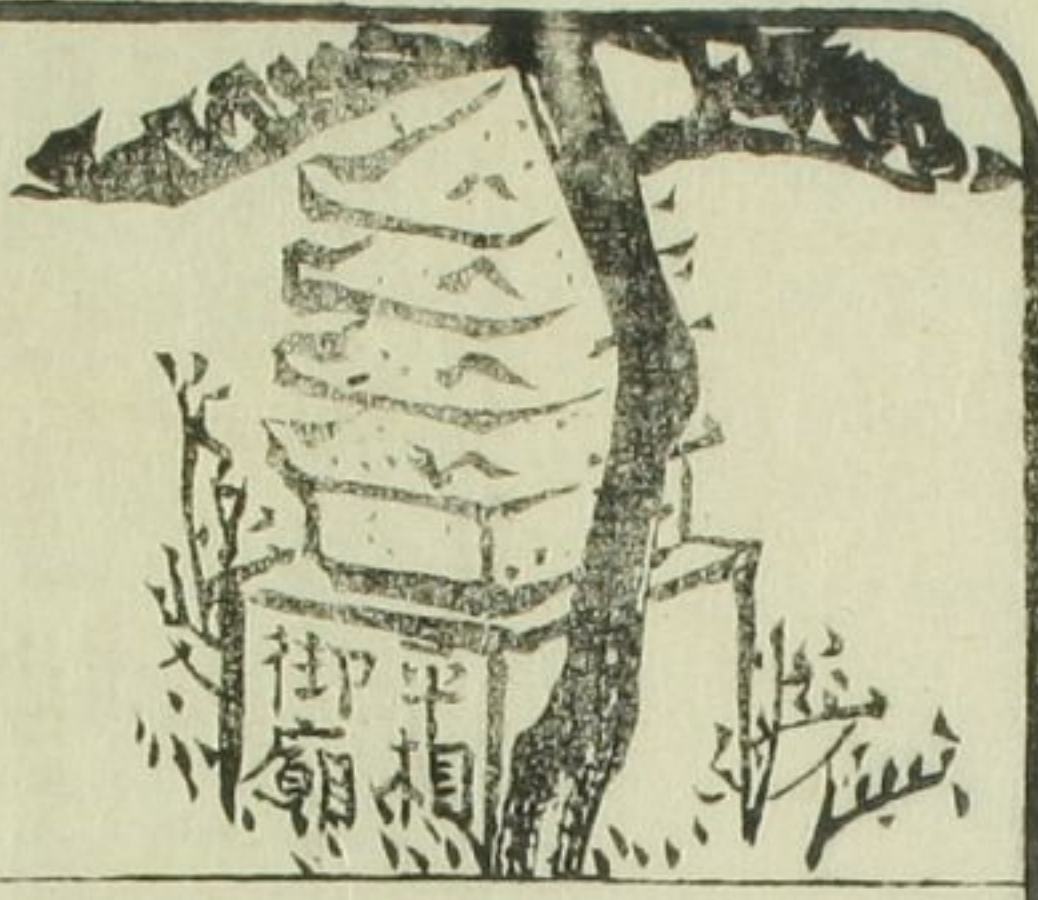


枝桂 枝桂 可耕  
 蝙蝠 蝙蝠 香雲  
 老寫 梅うらふあうや号たふりく 三河 寒馬  
 郭公 雀も鳥聖のはるくと人草 石馬 鹿個  
 鹿鳴 鹿鳴  
 眠山 眠山  
 吾鶴 吾鶴

鳥鳥大屋

肉菜之四品ふらふら  
儉うてれを字り  
虚しく執事とも  
盆々如く室ふを  
在るにやい其和その  
致親ききあわくと  
よる

つらまゝ遊ひまふ  
蛇年 かがみ維啄  
枝やれさゝ氣ふ  
お味もヨリ沙路  
恨んく味であらふに  
宗子鳥 渭江  
夏は秋の戻もた  
子観 井眉



撰武庫  
八棟寺  
平相國清盛  
石碑

な言信むむの字を郭々 三考  
新本も入つていふ子観 林田  
月よハ照し思ふとふら 風車 一ツ毛  
町を枝の音はく口く 養施  
けはの枝かきこ二日月 鶯 鶯  
曉をかつちる人即ちま 林田  
三折さや夜は世捨人子観 呂詞  
よ路るる音と音ふらう 竹夫  
ふと路るふくや垂い飯の飽 一秀  
町をけはの音はく口く 北後  
子観ゆきやま乃白ふま 梅日

鶉

かゝるは去年にたつ月の日 此角  
啼てゝ宿きとわしや郭々 干林  
ほゝとゝ氣ふかき観 臥堂  
出々ゆハ枝は米ふ蜀魂 春雄  
清中是見てもみは枝の舞 湖 湖  
待更下鶉の月ハ岳子際 石見  
口 孤芳  
口 固友  
口 沽浪  
秋田 松宇  
イキ 枕蓆

林は木を併は石か  
か人こそ 下 焉 笠  
よけあいのしんき  
やまの鳥の心非  
枝を掃くは乃  
吹くは 口一 蕙  
冬は月のこもりん  
四月は 口 宇橋  
葉のくや久佛堂  
の古瓦 口 如 髪  
冬は月の水鏡の  
おとこかし  
蟹守

蟬

松風を啼きつらう蟬一ツ 士容  
蝉のきこえはの枝のしるき 松喬  
さうりて煉堀は 蝉の声 器椎  
行く子あくや 蝉のきこえ 雪笠  
蝉の八月は歩けり 蝸牛 蕉雨  
ふもふ山落出きて 秋近 金友  
羽織きて 夏夜 致齋  
形代や水ふくは 秋近 井二  
所積る 所携り 井眉

浮瀬の園



秋の部

初秋 ちや木と 柳のさうら 亜井  
さきけ 柳のさうら 春芳  
初秋やさふかく 鳥のき 郡山 梅日  
黄ばふされ 近江のき 賀日  
初秋や水鏡に 秋のき 口 奏乐  
鶉と鶏を合さ 秋の枝 口 奏乐  
星の教ふ 秋の枝 盛岡 亀三  
を渡りし 秋の枝 滝



おの唐葉三曰  
 踊りて〜〜〜  
 心こゆ枝よ友と〜  
 七八年より〜  
 文七少踊り〜  
 叙せる女陣〜  
 後の園お踊り〜  
 子と〜合て市中〜  
 その名も〜  
 作る〜わん〜

大文字 おま〜山〜や大文字 全  
 山の跡を故部とせし〜 榎丸  
 い〜の礎〜 梅月  
 八月 八月お〜と〜のえ 巨考  
 八郎や源〜の鳥も新〜 知名  
 初嵐 氷多ハ物〜年〜初嵐 日野 士明  
 月 明〜〜のま月紅さ〜 ムツ 慶丸  
 ありと〜物〜や〜の月 小成  
 盛岡

おん〜ナニヨイ〜  
 唱あ〜も〜  
 古雅〜

野宮お別

成〜〜〜  
 や〜の玉 信松 價  
 淋〜〜のけ〜  
 木〜〜  
 木風や板魚〜  
 霧の神 雪雄



中ふくや折く節  
川流の折那梅り  
折るまき折るまき  
月の力も子イ定巻  
いふ葉やけ林といふ  
折るまき子イ折るまき

只山入や折るまき  
かゝるまき子イ折るまき  
まら折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
水巻く折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき

何所折の更々保  
山の月夜折るまき  
人のまき子イ折るまき  
林の月 出折 思山  
名月やん子イ折るまき  
林乃月 監園 起様

折のまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき

鳥鳥文庫

初折るまき子イ折るまき  
あまの折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
今瑞るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき

折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき

月

折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき  
折るまき子イ折るまき





井菴を初

鳥の事のかまや月名

イヨ井圃

山月海

わらわら

あはれ鳥の事

貝塚吾橋

鏡中

おはさるる

あつらふ山

エト久減

秋風

家ニツクの口々てあや甲 古葉  
山口の園を清きやまらる 茶城  
あはれ鳥の事のかまや月名 秋風  
あはれ鳥の事のかまや月名 秋風

孟月

秋風や人の心はまらるる 白梨  
鏡の事かまや月名 一芦

后月

后月かまや月名 井眉  
あはれ鳥の事のかまや月名 寒馬  
あはれ鳥の事のかまや月名 峰

落結や枝の初

小板

仙石

鹿あくやまはの

井井女

稲原ハ都の鳥て

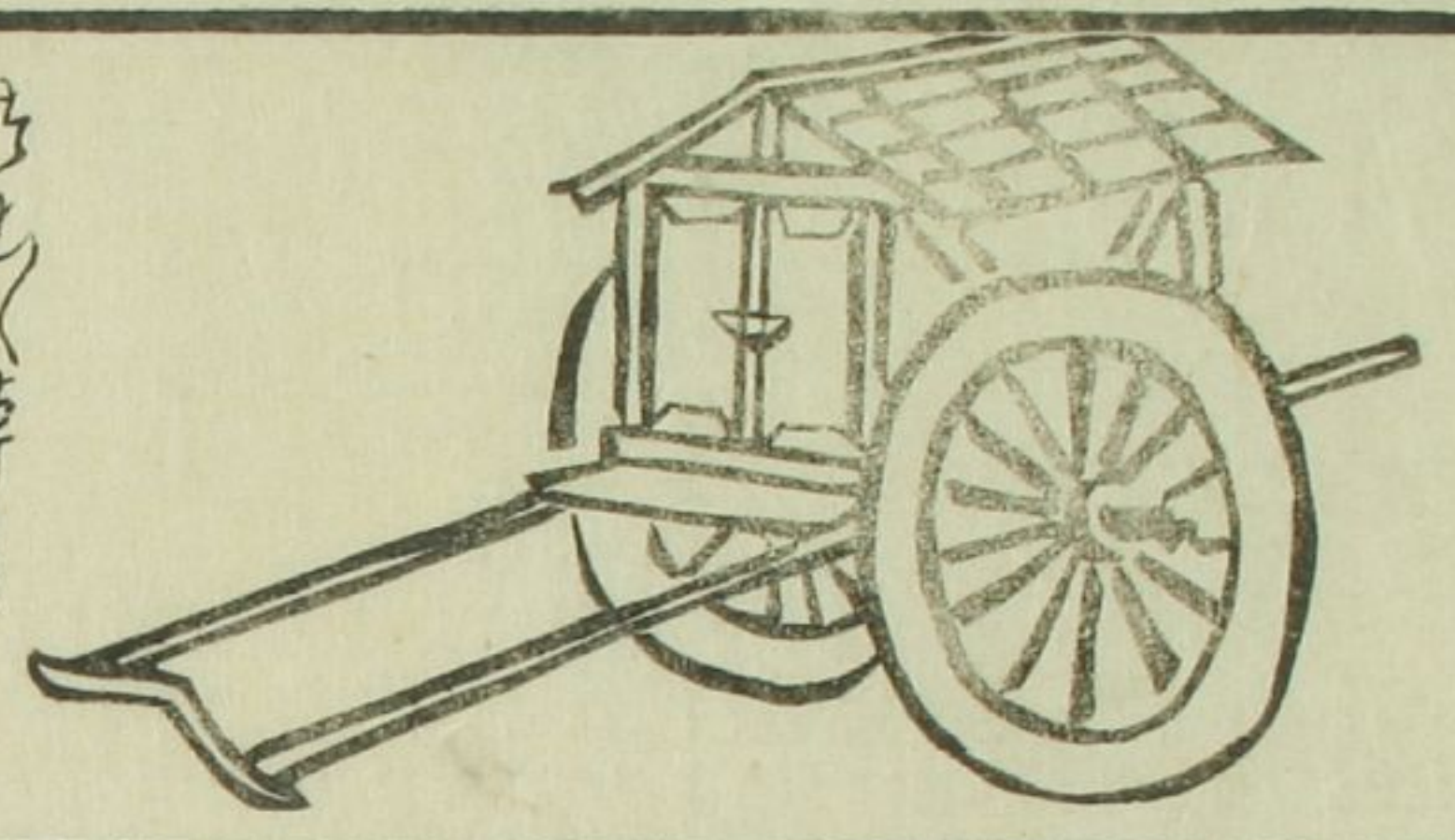
あつらふ

長りや足代の竹

あつらふ

長月	月	稲の花	桐一葉	木槿	萩	芙蓉
長月かまや月名 如髪	月かまや月名 千秋	稲の花かまや月名 風也	桐一葉かまや月名 白眉	木槿かまや月名 希石	萩かまや月名 呂端	芙蓉かまや月名 井左
あはれ鳥の事のかまや月名	あはれ鳥の事のかまや月名	あはれ鳥の事のかまや月名	あはれ鳥の事のかまや月名	あはれ鳥の事のかまや月名	あはれ鳥の事のかまや月名	あはれ鳥の事のかまや月名

文車



はるく草あて  
負物やて  
石山縁記その  
写しる

女房花

山崎の女房花  
 初く時日つとあくと女房花  
 山崎の女房花  
 鞍馬の女房花  
 娘の女房花  
 朝風や女房花  
 月夜や女房花  
 川の春菴の女房花  
 控早の女房花  
 世の女房花  
 金衣の女房花

龜山  
 吃丸  
 栄子  
 椿屋  
 イツモ  
 限巻  
 此角  
 懐佳  
 一芦  
 灌江  
 井右  
 如桂  
 起蟻  
 草屋

芒

竹花春

柿

菊

朝顔

青紙

紅葉

露草

鷹

鴨

鹿

朝顔の盛るハ秋の森を  
 青紙の盛るハ秋の森を  
 紅葉の盛るハ秋の森を  
 入相の盛るハ秋の森を  
 露草の盛るハ秋の森を  
 鷹の盛るハ秋の森を  
 鴨の盛るハ秋の森を  
 鹿の盛るハ秋の森を

唐女  
 逆柳女  
 柗稚  
 千鶴  
 鷺橋  
 花塘  
 玉蓮  
 芦川  
 棠溪  
 魚目秋  
 千佳

はるく草あて  
負物やて  
石山縁記その  
写しる

御風  
かたはる  
かたはる



山皮竈



食

神の猿

爐開

山皮

山皮の竈は神の都多 イセ 杖蘆

志の海は神の都多 杖田 杖友

寒は由るや服ははく杖の本 如丘

吹よれ此の世は青じやあゆ 盛岡 子竜

石火のけ食の懐り掛 米子 子雄

相風の相はめある ツレマ 文車

わけりやまもあ世の紙食 シナ 鬼國

根の葉もあはる イワモ 竹園

春風を ハリマ 一素

山皮を イキ 誘帳

杖田 イヨ 葦園

持よやそ好まのそ

呂園

待いしん人の破き

イッモ 草履

その板やあま

此ホ云

初春や雀のあま

春大

巨燧

櫛

曝八

その月

山皮を サキ 杖

古々の草け 呂調

葉 エト 糸葉

山 ムツ 壺山

あ ツルカ 糸玄

曝 ツレマ 杜橋

あ 杖田 渭貞

その月 日 静也

山 ヒロシマ 素白

山 クルソ 葛醉

雪のふりかへり  
かへりかへり 東蒼  
ちふふふふふふふふ  
ふふふ 枯鳥文

自樂

雪のふりかへり  
かへりかへり 謀老

雪のふりかへり  
かへりかへり カヒ重切

雪のふりかへり  
かへりかへり 昂左

雪

樹の鳥ふりかへりかへりかへりかへり 石及 兼二  
 峰止や雪ふりかへりかへりかへり 石及 一 排  
 積雪や柳ふりかへりかへりかへり 日 一 井  
 ちふふふふふふふふ 秋田 海邊  
 初雪をよけて通るぬねのうら 石及 石羊  
 積雪や園をほり伏家灯 秋田 孤群  
 こぼれたる氷も少玉の氷も 秋田 十の女  
 ぬねや法々馬の留と嘘心 タニ 舞殿  
 鴨の声浪ふりかへりかへり エト 武陵  
 夕浪の子をかへりかへり 秋田 國村  
 いとちかへりかへりかへり 秋田 渭江

井屋菴と梅の枝  
とたのしげなや  
ねんね金持よか  
おとろくよよと  
けいけいせい  
ふふふふふ  
こちかへり

つらつらや  
とめ火崎き  
冬の花

酔うん尺  
着こ

草

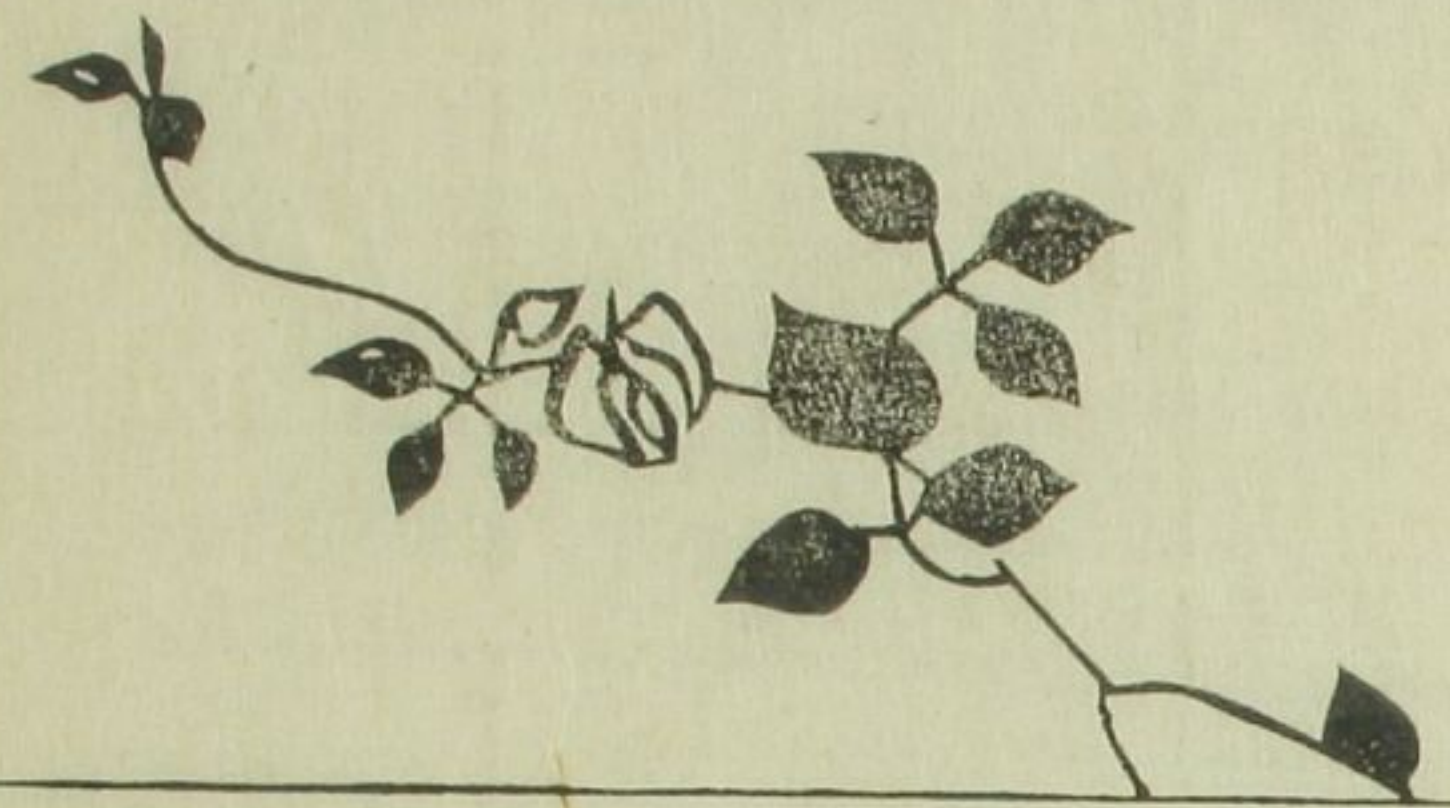
みやきあおの夜の旭を踏て イヨ 草園  
 ちかほけいおのうあふりかへり 石及 自樂  
 大声なねつてくやぬの鳥 石及 北城  
 一ありかへりかへり イヨ 玉池  
 ねんねのまかへりかへり イヨ 玉池  
 ぬね梅少ふりかへり 石及 此書  
 山買ふておのう落葉とほね 石及 一 巴  
 落葉はくろく人 貝塚 佳え  
 枯てくろく春のま 石及 道樂  
 船より七低き枯柳の少 石及 子鹿  
 枯草や雨も知もけ 秋田 宗賀

日けりてはるる名  
 みの草年  
 ナリけ路  
 おけきくらの座  
 めけてある  
 二十ノ若人  
 やまくとさ  
 浦のね  
 百堂  
 二日月けある内  
 しくおまふ  
 倍  
 標堂

枯屋心 萬花集もまふて枯屋心 天籠  
 茶ねむ 茶の花や旅の趣や足申 天例  
 小春 叶よまに打る癖のほく少結 風也  
 師走 之形あの一殿一箇一歩走 鬼國  
 年忘 昔とねれ鳥あせ年忘 了遊  
 年木樵 舊のま枝のせ年木樵 鷺橋  
 年ノ市 髻度よりいさあ一年の市 葦山  
 行年 川年をものかきや結と雀 草お  
 梅つけて群ふ年をち復ふ 松葉  
 山々ハ山々あふふ年の昔 虎遊  
 吹風も年々うらりのよ暖味の美 此角

よとこの44

七八月は戻



四季之部

春

夕中庭果ハ木草乃糸うふり 湖相  
 春の音も響る山の丘 井眉  
 鶯おあををさる人々 網  
 鶯の風は乾く廿 眉  
 月影は粘しく印のまらる 網  
 節も息子をとお撲取ちり 眉  
 秋やま溜の浦をかこめる 全  
 ちろちろとこをほおは利 網

追々今更なる中夜を  
まじゆ

眉の魂を帯く  
まよふ

月澄ち

古今まじりて

古の迹

みらなく木の松山  
彩雅

彩雅

無量より

隈縁より

あはれみ

エテユ

石海

粟のたにあらう魚うきんま

何れすふとたな屋の福

たぐひも出さぬゆくの影

毛の折音ひしそ牛や笑えん

七月月打ちちとらなりと初瀬の

此のサタのかさよあつ澄りり

鬼の人杖ろくろとほそり

袖も志留事そ映り火をそ

たぐさしに厨の側乃かくり死

少雨はやあふ影るハ木の葉れ

眉

眉

眉

眉

眉

眉

眉

眉

眉

眉

春若く郊

節のひすくそられてうめれた

藤のむらや梅もあめ花と

もや人は春若りつらり花の梅

うめ一本もそらうそそもよめれ

須るも春さくらもあはれいあがる

大津よりあめあはれむさくら

をすまねくちる花をさくらあり

鶯はさくらさくらを啼よりり

たぐはるを春若く通るやは春

登園

欣雅

エト

抱儀

木の松山

彩雅

如の

如蘭

仙タイ

浩玉

登園

惠彦

李の

李堂

クレハ

守豊

南六





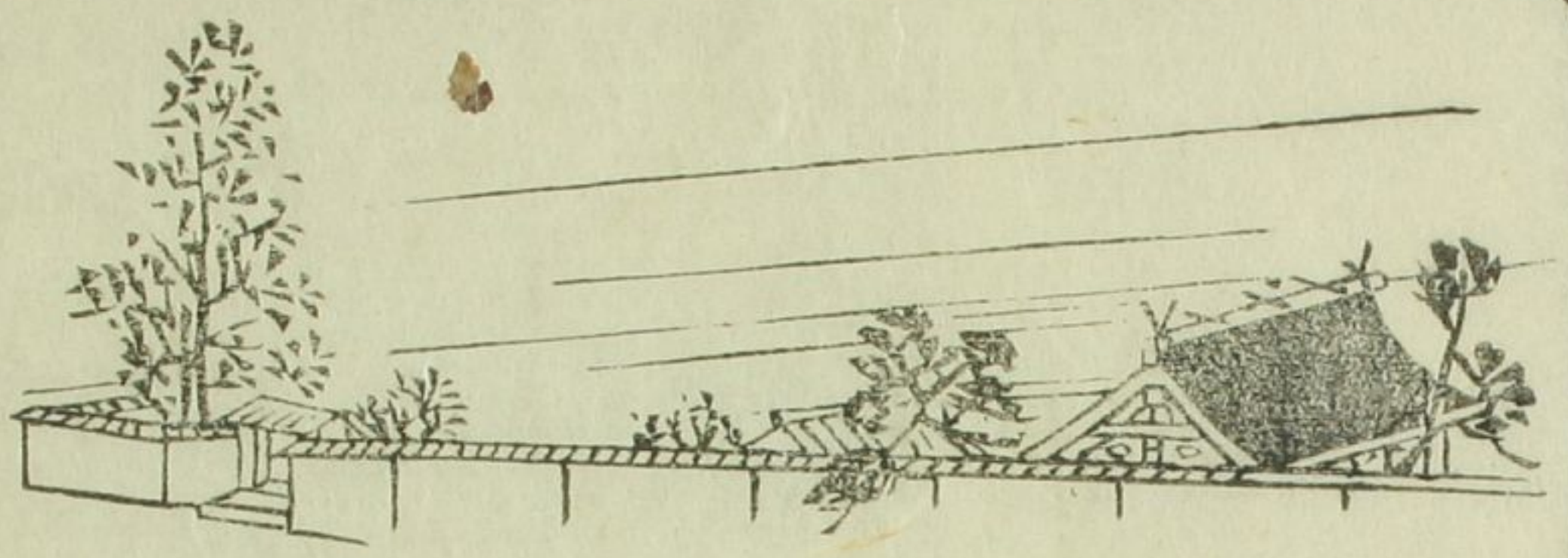
風のきりの  
南島をかくる人  
武日

不二月結る  
且も所定のち  
一塚

徳をよめる丘の  
小島月夜者  
巴非

ほ月の  
太希りハス  
おまハ減る  
井眉

あまたちのちあもえんはしはくし  
むしーのや月けりあるまらぬ  
月のあやうかき居た小端は  
月のあやをなうのえお乃鼻大  
我九日葵もる居本の草まらぬ  
葉の香をえひらけらるる遊水  
をーものくもる藤や奈のまらぬ  
枯竹もあらけりあての紙子代  
葉のあはち葉まの神の垣の外  
晴る日もやまけのさけまのの  
養由  
眉月  
月夜  
士角  
草塘  
蝶友  
其友  
薑山  
梅雄  
桃秋



花鳥のりやう

今えらばは奉額  
春之部  
類冊す位と花早

初年のまをもちうけ  
水さくもまをまのまよる  
十かのもや月おのまよ  
さく見らぬ人まをまらぬ  
まわ初まのちまらぬ  
まわ初まのちまらぬ  
まわ初まのちまらぬ  
初年やうあをえんはく風うら  
ほのさくはまらぬ  
井左  
翁石  
佳元  
里徳  
亜井  
其督  
岩実  
此角  
松園  
一存





風鳥



池まやなうねの末より  
ニワク  
 月よきま 纏うかよたいむしや弘  
那山  
 張の印しりめはよかむたまき  
奥平山那まき  
 土口日かきりも敷いもむし  
文繡  
 月丁むや古入りもむし延  
出羽ニナト  
 うらむむしむしめきむしむし  
京三  
 めのうめ酒かけらむし  
伊勢々々  
 うらむしやきむしむしはの上か  
社  
 鶴ひさつ吹ようねむしむし  
御田  
 和雪ややめめむしむしにむし  
モリオカ  
 岸つむしむしむしむしむし  
馬遊  
 丹頂

さくせつ翁肖像の賛

人は母なる魚はしきくんけむしおよぶを好む  
 ちちお雪はりをいしむらむしおよぶを好む  
 法山くくしを眺めてむし或腸を吐ぬを  
 唱くすむしをむし無きむしをむしを好む  
 さくせつ翁の肖像

翁の肖像の中にお  
月と花

評六

俳諧山竹井 二冊	沈氏拾遺集 上下	沈氏四事文集 二冊
同續山の井 五冊	曰先代鳥文庫 十卷	曰真砂集 二冊
同通け集 上下	曰類葉集 二冊	曰市室集 全
同かきり集 二冊	曰文章集 五卷	曰正月日記 全
同七部集解 通刻	曰源門集解 通刻	曰まことやむら 全

文政十一年十二月

京都書林

江都書林

大坂書林

寺町通所他上九

江屋

安子所

中通新右馬所

前門

六右馬門

心社橋南四丁目

吉文字堂市石巻門

日用防町筋東入

井筒屋栄藏板

